

2025年

1月1日

第491号



# JR東海労

<http://jrtoukairou.sakura.ne.jp/>

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-6-5

Tel 03-3201-0350 FAX 3201-0351

Eメール jrtoukairou@yahoo.co.jp

JR東海労働組合

発行人 淵上 利和

編集人 高山 浩



## 闘 春

写真 新幹線地本 佐藤 正美

### JR東海労の組織展望をつくり出す

#### 新たな闘いの年にしよう！

中央執行委員長 淵上 利和



2025年、新年明けましておめでとう  
ございます。昨年は、私たちJR東海労に  
とって大きな転換を迎えた一年でした。J  
R総連による組織破壊攻撃に屈することな  
く、JR東海労結成以降、33年間つくり出  
してきた闘いを基礎に、そしてJR東海労  
の未来をつくり出していくために、第42回臨時大会を開催し、JR  
総連運動との決別とJR総連からの脱退を決定しました。形態的、  
内容的に大きな転換を確認する歴史的臨時大会でした。

私たちは、これからもJR東海労らしく、職場の問題を改善する  
ために闘っていきます。そしてJR本体・関連会社での組織拡大を  
実現していく年にしたいと思います。是非皆さんのご協力をお願い  
します。

JR東海労の運動の広がり闘いの前進のために、継続組合員の  
取扱いを変更します。多くのOB会員のご賛同をお願いします。静岡  
地本はOB会員の方と協力し、冤罪を許さない闘いを地域の中から  
つくり出してきました。またリニア中央新幹線建設によって環境が  
破壊され多くの住民の方々が苦しめられています。市民団体と連帯  
し建設反対の闘いをつくり出してきました。

更に支援・連帯の関係を強化していきたいと思えます。JR東海  
労への批判や否定は、労働者の連帯と組織化の否定であり、会社・  
企業の代弁者です。私たちは労働組合として、職場の労働条件の改  
善のために闘います。そして虐げられ苦しんでいる労働者がいれば  
支援し共に闘います。

私たちは、企業内労働組合の枠に留まることなく、労働者・労働  
組合の連帯を活動の一つとして明確にし闘っていききたいと思いま  
す。そこにJR東海労の組織展望を必ず見出し出すことができると思  
信しています。新たな闘いの出発を組合員・OB会員とスクラムを  
強化し共に闘っていきましょう。

新年明けましておめでとうございます。J S 労を結成して早1年5ヶ月が経ちました。J S 労結成の原点は、苦闘する労働者と一緒に労働条件を改善することです。改めてそのことを確認し、訴えたいと思います。

15回にも及ぶ団体交渉により、様々な要求を実現してきました。そして、昨年の年末手当交渉においては、サービック労組をして、当日に妥結できない状況をつくり出してき



## 年頭にあたって J R 総連への回答は組織拡大で返す！ J S 労執行委員長 柳楽 関



新年明けましておめでとうございます。J S 労を結成して早1年5ヶ月が経ちました。J S 労結成の原点は、苦闘する労働者と一緒に労働条件を改善することです。改めてそのことを確認し、訴えたいと思います。

15回にも及ぶ団体交渉により、様々な要求を実現してきました。そして、昨年の年末手当交渉においては、サービック労組をして、当日に妥結できない状況をつくり出してき



露わになった態様が今次年末手当交渉で体現したということだと思えます。従いまして、二重加盟の解消もせしめ、組合員の氏名も公表しません。なぜなら、これまでの歴史を見れば、闘う労働組合を破壊するためには、あらゆる手段を駆使して弾圧してきたのが会社・資本・権力だったことは、J R 総連に所属する組合員であれば経験則上分かるはずだからです。

J R 総連は昨年12月12日、J R 東海労連の仲間であるJ R 東海労を除名しました。その最大の理由が、J S 労の二重加盟問題だとしています。J R 総連は、弾圧する側に立ったということですが、私たちは、この弾圧に対しての答えを、組織拡大で返していきたいと考えています。

常に職場生産点で働く労働者の立場に立つて、地道に労働条件改善のために闘って行く決意を明らかにして、新年のご挨拶申し上げます。今年もよろしくお願いします。



J R 東海労連結成大会 2月11日



CMC社員がJ R 東海労加入 2月11日披露



静岡地本定年を祝う会 1月23日



2024憲法大集会 5月3日



ストップ・リニア！訴訟 4月25日



年休裁判東京控訴審不当判決 2月28日



袴田巖さん無罪判決 9月26日



J R 東海労の組織強化・拡大を 勝ち取るための9・12集会



年休裁判大阪訴訟控訴審 不当判決 5月16日



第27回登山大会 12月11～12日



袴田巖さん再審完全無罪 報告集会 10月29日



津崎裁判第1回口頭弁論 報告集会 10月25日

写真で振り返る2024年の闘い  
今年も真の労働運動を展開するぞ！

# J R 総連・一部O B らによる組織破壊粉碎！ J R 東海労らしく、J S 労と共に闘おう！ 4 地本委員長 新年の決意表明

## 全労働者の声を

### 代表して闘う！

#### 新幹線地本 伊藤 一也



明けましておめでとう  
ございます。昨一年間の  
新幹線地本の取り組みに  
対して多くの激励、ご協  
力に改めて感謝を申し上  
げます。

昨年は、J R 総連から  
の J R 東海労組織破壊攻  
撃により新幹線地本から  
16 名の脱退者が出まし  
た。この脱退をつくり出  
した J R 総連を許さず、  
今後も J R 東海労の当た  
り前の運動を推し進めて  
いく決意です。

いがデタラメであること  
が満天下に明らかになり  
ました。昨年11月28日、  
診断書強要行政訴訟は  
「中労委命令を取消す」  
という完全勝利判決が言  
い渡されました。今後も  
会社の労働組合軽視の姿  
勢を糾すために闘いを更  
に強化していきます。

ど、労働組合として当た  
り前の労働運動を展開し  
ていきます。そして、全  
にがんばりましょう。

## 職場問題の解決を

### 組織拡大に！

#### 名古屋地本 松山 文成



労働組合員に寄り添って  
いきます。

東海労内での分断を  
り、組織破壊が行われ、  
名古屋地本からは2名か  
ら脱退届けを提出されて  
います。第42回臨時大会  
において、組織破壊を行  
う J R 総連からの脱退、  
そして何にも縛られない  
J R 東海労の運動をつく  
り出していく事を確認し  
ました。

## 東海の地に労働運動の

### 灯を消さない！

#### 新幹線関西地本 笹田 伸治



R 東海労からの脱退者で  
結成された新組合の加盟  
を決定しました。これは  
J R 総連が J R 東海労の  
組織破壊を行うという絶  
対に許されない行為で  
す。私たちは、J R 総連  
からの組織破壊攻撃を断  
固許さず J R 総連に賛同  
・加担する脱退者を許さ  
ず断固闘っていきます。



#### 静岡地本 半場 弘恭

### 真の労働運動を 展開する！

新年明けましておめで  
とうございます。昨一年  
間の静岡地本の取り組  
みに対する激励やご支援  
に対し、改めて御礼を申  
上げます。

袴田巖さんの早期完全無  
罪を勝ち取るため、「浜  
松 袴田巖さんを救う市  
民の会」と連帯し、街宣  
行動や裁判傍聴、集会へ  
の参加を行いました。10  
月8日、袴田さんの無罪  
が確定しました。地本は  
10月29日、「袴田巖さん  
の完全無罪報告集会」を  
開催し、この間の闘いの  
成果と、今後の取り組み  
を確認しました。

報で建設反対を訴えてき  
ました。

12月に J R 総連から脱  
退しましたが、J R 東海  
労として更に真の労働運  
動を静岡地本らしく取り  
組んでいきます。今年も  
引き続き、労働条件改善  
に向け、職場での目に見  
える闘い、平和・人権・  
民主主義を守る闘い、リ  
ニア建設反対の闘いな

明けておめでとう  
ございます。旧年中は大  
変お世話になりました。  
お陰様で元気に新年を迎  
えることができました。

ありがとうございます。  
私たちは新幹線関西地本  
は、J R 職場と出向先職  
場で働く労働者の利益と  
権利を守る運動を展開し  
てきました。しかし、J  
R 総連は私たちの取り組  
みを否定し、昨年末に J

# J R 総連脱退・査問委員会設置決定、新たな組織展望の展開！



## 歴史的な第42回臨時大会

J R 東海労は12月11日、大阪市内で第42回臨時大会を開催しました。議長に新幹線関西地本の小林代議員を選出しました。来賓に、J S 労より柳楽委員長、西副委員長、高木副委員長が出席しました。

今大会で、役員の解任及び選出、J R 総連からの脱退、規約一部改正、査問委員会を設置し組織破壊の首謀者3人を制裁対象者とすることを決定しました。

### 組織破壊攻撃を許さず、

### 私たちの組織展望を切り拓く！

### 淵上委員長挨拶 (要旨)



化し、そして組織拡大を実現するための決意を打ち固めるため、J R 総連運動と決別し、J R 総連からの脱退を決定するための臨時大会です。

今大会の目的は、今後私たちが進んでいく方向を明確にしていくための臨時大会です。同時に、J R 総連による組織破壊攻撃を許さず、団結を強

11月14日、新幹線地本の藪君、森下君、田村君が脱退届を提出し、それ以降脱退者が続きました。この日は、J R 総連執行委員会が開催された日であり、当然、3人の脱退はこれに合わせての脱退です。それは、J R 総連によるJ R 東海労への組織破壊攻撃への宣戦布告です。11月28日、J R 東海セントラル労働組合が結成されました。それは、J R 東海労が無くなるまで、J R 総連からの組織破壊攻撃は続くということを意味します。

21名もの脱退者をJ R 総連によってつくり出されました。この事態において、「総連と共に」の意識のままでJ R 総連からの除名処分を受けることは、新たな組織破壊攻撃としてつけ入る内容を

組織的に残すことになり「J R 総連と共に」という意識を転換し、J R 総連に立ち向かわなければならぬからです。御用組合化したJ R 総連運動と決別し闘うことなくして組織は強化されません。その転換こそが新たな脱退者を許さないことであり、組織破壊者・J R 総連の手先となった脱退者と断固闘っていく決意を確立することになるからです。その出発点が今臨時大会です。

J R 総連は組織破壊者・産別であることが明確となり、加盟中の単組から脱退者をつくり出すことは、産別組織の破壊を産別自体が行ったということであり、決してあつてはならないことです。しかし、この極めて当たり前のことが通用しないのが今のJ R 総連の価値観であり、その現れが今回の脱退者の組織化と新労組結成です。闘う労働組合の組織化を捨て去ったということなのです。

12月12日、J R 総連は第42回臨時大会を開催し、J R 東海労を除名します。そして同日続けて第43回臨時大会を開催し、J R セントラル労働組合のJ R 総連加盟を決定します。

12月7日、J R 東海労は全地本代表者会議を開催しました。まだJ R 総連加盟であるJ R 東海労が存在しているにも関わらず、J R セントラル労働組合との連帯をJ R 東海労として進めていくことを確認したということ、12日にJ R 東海労が除名されることが前提であり、除名が既に決まっているということ、そしてJ R セントラル労働組合のJ R 総連加盟も決定していることを明らかにしました。こんなことが許されるのでしょうか。これがJ R 総連の正体であり、J R 総連の真実の姿です。この産別・労働組合としての最低限のルールさえ否定したのです。J R 総連の結集軸は、J R 総連に黙って付き従うということ、J R 総連からJ R 東海労が除名処分を受ける理由も根拠もなくありませ

11月14日、新幹線地本の藪君、森下君、田村君が脱退届を提出し、それ以降脱退者が続きました。この日は、J R 総連執行委員会が開催された日であり、当然、3人の脱退はこれに合わせての脱退です。それは、J R 総連によるJ R 東海労への組織破壊攻撃への宣戦布告です。11月28日、J R 東海セントラル労働組合が結成されました。それは、J R 東海労が無くなるまで、J R 総連からの組織破壊攻撃は続くということを意味します。

21名もの脱退者をJ R 総連によってつくり出されました。この事態において、「総連と共に」の意識のままでJ R 総連からの除名処分を受けることは、新たな組織破壊攻撃としてつけ入る内容を

組織的に残すことになり「J R 総連と共に」という意識を転換し、J R 総連に立ち向かわなければならぬからです。御用組合化したJ R 総連運動と決別し闘うことなくして組織は強化されません。その転換こそが新たな脱退者を許さないことであり、組織破壊者・J R 総連の手先となった脱退者と断固闘っていく決意を確立することになるからです。その出発点が今臨時大会です。

J R 総連は組織破壊者・産別であることが明確となり、加盟中の単組から脱退者をつくり出すことは、産別組織の破壊を産別自体が行ったということであり、決してあつてはならないことです。しかし、この極めて当たり前のことが通用しないのが今のJ R 総連の価値観であり、その現れが今回の脱退者の組織化と新労組結成です。闘う労働組合の組織化を捨て去ったということなのです。

12月12日、J R 総連は第42回臨時大会を開催し、J R 東海労を除名します。そして同日続けて第43回臨時大会を開催し、J R セントラル労働組合のJ R 総連加盟を決定します。

11月14日、新幹線地本の藪君、森下君、田村君が脱退届を提出し、それ以降脱退者が続きました。この日は、J R 総連執行委員会が開催された日であり、当然、3人の脱退はこれに合わせての脱退です。それは、J R 総連によるJ R 東海労への組織破壊攻撃への宣戦布告です。11月28日、J R 東海セントラル労働組合が結成されました。それは、J R 東海労が無くなるまで、J R 総連からの組織破壊攻撃は続くということを意味します。

21名もの脱退者をJ R 総連によってつくり出されました。この事態において、「総連と共に」の意識のままでJ R 総連からの除名処分を受けることは、新たな組織破壊攻撃としてつけ入る内容を

組織的に残すことになり「J R 総連と共に」という意識を転換し、J R 総連に立ち向かわなければならぬからです。御用組合化したJ R 総連運動と決別し闘うことなくして組織は強化されません。その転換こそが新たな脱退者を許さないことであり、組織破壊者・J R 総連の手先となった脱退者と断固闘っていく決意を確立することになるからです。その出発点が今臨時大会です。

J R 総連は組織破壊者・産別であることが明確となり、加盟中の単組から脱退者をつくり出すことは、産別組織の破壊を産別自体が行ったということであり、決してあつてはならないことです。しかし、この極めて当たり前のことが通用しないのが今のJ R 総連の価値観であり、その現れが今回の脱退者の組織化と新労組結成です。闘う労働組合の組織化を捨て去ったということなのです。

12月12日、J R 総連は第42回臨時大会を開催し、J R 東海労を除名します。そして同日続けて第43回臨時大会を開催し、J R セントラル労働組合のJ R 総連加盟を決定します。

11月14日、新幹線地本の藪君、森下君、田村君が脱退届を提出し、それ以降脱退者が続きました。この日は、J R 総連執行委員会が開催された日であり、当然、3人の脱退はこれに合わせての脱退です。それは、J R 総連によるJ R 東海労への組織破壊攻撃への宣戦布告です。11月28日、J R 東海セントラル労働組合が結成されました。それは、J R 東海労が無くなるまで、J R 総連からの組織破壊攻撃は続くということを意味します。

21名もの脱退者をJ R 総連によってつくり出されました。この事態において、「総連と共に」の意識のままでJ R 総連からの除名処分を受けることは、新たな組織破壊攻撃としてつけ入る内容を

組織的に残すことになり「J R 総連と共に」という意識を転換し、J R 総連に立ち向かわなければならぬからです。御用組合化したJ R 総連運動と決別し闘うことなくして組織は強化されません。その転換こそが新たな脱退者を許さないことであり、組織破壊者・J R 総連の手先となった脱退者と断固闘っていく決意を確立することになるからです。その出発点が今臨時大会です。

J R 総連は組織破壊者・産別であることが明確となり、加盟中の単組から脱退者をつくり出すことは、産別組織の破壊を産別自体が行ったということであり、決してあつてはならないことです。しかし、この極めて当たり前のことが通用しないのが今のJ R 総連の価値観であり、その現れが今回の脱退者の組織化と新労組結成です。闘う労働組合の組織化を捨て去ったということなのです。

12月12日、J R 総連は第42回臨時大会を開催し、J R 東海労を除名します。そして同日続けて第43回臨時大会を開催し、J R セントラル労働組合のJ R 総連加盟を決定します。

11月14日、新幹線地本の藪君、森下君、田村君が脱退届を提出し、それ以降脱退者が続きました。この日は、J R 総連執行委員会が開催された日であり、当然、3人の脱退はこれに合わせての脱退です。それは、J R 総連によるJ R 東海労への組織破壊攻撃への宣戦布告です。11月28日、J R 東海セントラル労働組合が結成されました。それは、J R 東海労が無くなるまで、J R 総連からの組織破壊攻撃は続くということを意味します。

21名もの脱退者をJ R 総連によってつくり出されました。この事態において、「総連と共に」の意識のままでJ R 総連からの除名処分を受けることは、新たな組織破壊攻撃としてつけ入る内容を

組織的に残すことになり「J R 総連と共に」という意識を転換し、J R 総連に立ち向かわなければならぬからです。御用組合化したJ R 総連運動と決別し闘うことなくして組織は強化されません。その転換こそが新たな脱退者を許さないことであり、組織破壊者・J R 総連の手先となった脱退者と断固闘っていく決意を確立することになるからです。その出発点が今臨時大会です。

J R 総連は組織破壊者・産別であることが明確となり、加盟中の単組から脱退者をつくり出すことは、産別組織の破壊を産別自体が行ったということであり、決してあつてはならないことです。しかし、この極めて当たり前のことが通用しないのが今のJ R 総連の価値観であり、その現れが今回の脱退者の組織化と新労組結成です。闘う労働組合の組織化を捨て去ったということなのです。

12月12日、J R 総連は第42回臨時大会を開催し、J R 東海労を除名します。そして同日続けて第43回臨時大会を開催し、J R セントラル労働組合のJ R 総連加盟を決定します。

# 組織破壊攻撃を許さない！

## J S 労柳楽委員長挨拶（要旨）



結をしませんでした。この変化をどう見るのか？ J S 労は当然再申し入れを行うとして、会社から「まあ、あわてて妥結しなさんな」と、指導を受けたのではないかと思います。

J S 労結成後、15回の団体交渉を開催し、機関紙『ジャストニュース』は50号発行しました。年末手当交渉では、これまで全く変えなかった契約社員の月数を0.98ヶ月から1.0ヶ月（約4,000円増）にしました。サービック労組は当日妥

J S 労効果です。少しづつですが改善を勝ち取っています。11月には組織拡大を実現しました。

S 労は怖い人の集まり」と洗脳しています。ものすごく危機感を持っています。労働者の立場に立ちました J S 労を、会社・権力は認めたくないのです。一番の問題は二重加盟だと言っています。これと同じことを言っているのが、J R セントラル労働組合に加入した或いは、O B 会を退会した人

J S 労と共に J R 東海労働運動を拡大させるために、今後も奮闘します。◆ J R 総連近畿地協津崎議長は、新幹線関西地本を組織破壊者にデッチ上げるために、嘘の報告書を書きました。これに基づき、J R 総連からの排除が行われています。J R 総連指導部はこの間、私たちの闘いを散々妨害してきました。一方

# 全発言者が J R 総連脱退に賛同！ 組織展望を切り拓く闘いを展開する力強い発言

◆ O B の有志の会員4名が、J R 総連支持の内容の郵便物を多くの O B 会員に送りました。今井 O B 会長の名前があり、地本は旗開きを開催しますが、今井会長には来賓としての参加依頼はしません。本部・地本を支持する O B 会幹事と地本は、O B 会員に連絡し、真相を話し、大多数の O B 会員は納得しました。

加藤正利君が脱退届を郵送し、荻野隆一君は業務委員会終了後、東海鉄事敷地内で脱退届を手渡

しました。加藤君は28と29日に年休を取得しています。9月段階で脱退と新労組結成が計画されていたということですが、2名の組織破壊行為のことも含めて、地本として12月7日に2名の脱退表明を絶対に認めない、彼らの行為は組織破壊行為だ、加盟単組である J R 東海労に対して組織破壊を行う J R 総連とは決別する声明を发出しています。ハッキリと決意を上我慢できません。J R

◆ 11月28日、診断書強要行政訴訟の完全勝利判決を勝ち取りました。多くの支援連帯の闘いに対し感謝します。

脱退者らは、「森下を支える。J R 総連と共に。除名されるような組合には入れない」などと言っています。しかし、森下を支えて一体どのような運動をするのかは全く伝わってきません。目的は、J R 東海労を壊すことだけで、それは J R 総

連の意思によって、テコ入れによって、進めてきたのだといえます。

J S 労の結成の意義は何か、職場で虐げられている労働者と共に闘うということ。おかしい方向に行った総連を糾弾として、J R 総連と共に行ってきたが、今は共にできる組織ではないという事がハッキリしました。産別の中の単組を自らが壊し、追い出そうとするなど前代未聞の行為であり、究極の組織破壊行為です。

J S 労と共に J R 東海労働運動を拡大させるために、今後も奮闘します。

◆ J R 総連近畿地協津崎議長は、新幹線関西地本を組織破壊者にデッチ上げるために、嘘の報告書を書きました。これに基づき、J R 総連からの排除が行われています。J R 総連指導部はこの間、私たちの闘いを散々妨害してきました。一方

的休日出勤反対の闘いでは、何の権限もないのに、スト権確立を認めません。しかし、東労組や西労のスト権確立は認めました。J R 東海労のスト権確立は、間違いなく職場の労働者に影響を与えます。新しい職場に闘う労働組合を結成すること、J R 労働運動を壊滅させようとしている会社・権力が許すはずがありません。J R 総連指導部は、会社・権力の意を受

け、その手先として動き、そこまで変質してしまっただけです。

津崎裁判は、誰が私たち J R 東海労を J R 総連から排除しようとしているのか？誰が津崎に嘘の報告文書を作成させたのかを明らかにすることを通じて、組織破壊攻撃を跳ね返し、共に闘う仲間を拡大する闘いです。

◆ 袴田巖さんの裁判は、完全無罪判決を勝ち取りました。J R 総連は、その運動において、絶対いなければならなかった

# J R 東海労らしく闘いを展開しよう！

## 本橋書記長総括答弁（要旨）



「脱退者全員を査問対象とすべき」との発言がありました。これについては、さしあたり3名を対象とし、その他は議論したいと考えています。

また O B も、O B となるうとしていない方も、共に闘う意思のある方は組合員として認めていきたいと考えています。

「J S 労結成を認めない」とした J R 総連の間違った考えから、J R 東海労へのカッコ付き「指

その場への参加を放棄し、えん罪と闘ってきた仲間たちの苦闘や連帯を蔑ろにしました。J R 総連の姿勢を許しません。

地本 O B 会長はこの間、地本役員からの報告に応じず、「O B 会の許可無く O B 会員宅への訪問は認めない」とか、本部情報や職場討議資料の O B 会員への提供を妨害し、分会 O B 会のスローガン「J R 東海労と共に」を一方的に保留にして撤回もせず、地本からの質問書には回答せず、継続

組合員は O B 会員と認めないことをごり押ししてくるなど、本部・地本を無視した動向は看過できません。組織を内側から破壊する先兵です。地本 O B 会長は旗開きの来賓挨拶の要請はしないことを執行委員会決定し、本人には地本見解を通告していきます。

J R 総連と決別し、新たな道を切り拓ける展望を持って、共に奮闘しよう。

覚しました。本部は当該地本と連携して説明します。

◆ J R 東海労2029年「J R 東海労2029年解散」を私は絶対に認めることができません。これからは J R 総連と決別すること、J R 東海労らしく東海の地に労働運動を展開できます。

J R 総連が、こともあろうに加盟単組の J R 東海労への組織破壊攻撃を行いました。意を受けた一部組合員・O B による組織破壊攻撃を断じて許しません。一部脱落者の会計上の不適切処理が発

導」による「妨害」が始まりました。これまで J R 総連からは、何を言われても従わざるを得ませんでした。しかし、1月に山口委員長が言った「J R 東海労2029年解散」を私は絶対に認めることができません。これからは J R 総連と決別すること、J R 東海労らしく東海の地に労働運動を展開できます。

今、J R 東日本ではパワハラが横行しています。J R 東労組は法廷闘争に立ち上がらない、懲戒解雇になっても解雇撤回に向かえない、会社と闘えないことに疑問を持ちます。今の J R 総連は「J R 東海労のように闘われない」と考え、J R 東海労を排除したのです。こうした現実に向かい、今大会で本部は J R 総連からの脱退を決断しました。ここまでやられて黙ってはいられません。J R 総連から決別すること、私たちの方針である組織拡大、関連会社など虐げられた労働者と共に闘うための組織化を今以上に進めていきます。本部は組合員と共に全力で闘います。

# 職場からの闘いで組織展望を切り拓こう！ 闘う仲間からの決意表明

## 診断書強要行政訴訟完全勝利判決！

新幹線地本 土川 節夫



全勝利判決が言い渡されました。

この闘いは、2017年から続くもので、年休にもかかわらず、会社が診断書の提出を強要し、その解決を図るために申し入れた団体交渉の開催を拒否したことを発端にしたものです。都労委では組合の主張を全面的に認められ完全勝利命令が出されましたが、中労委で逆転不当命令が出され

明けましておめでとうございます。昨一年間の御支援や御協力に改めて感謝申し上げます。

昨年11月28日、診断書強要行政訴訟は「中労委命令を取消す」という完

## 袴田さん無罪判決！ 冤罪撲滅を！

静岡地本 渥美 弘



新年明けましておめでとうございます。

昨年はJR東海労にとって大きな動きの年でした。組合員はじめ執行部、各級役員の奮闘に敬意を表します。

私の一年は「袴田巖さん無罪判決」を勝ち取る

ため、国(中労委)を相手取って行政訴訟で取り組んだものです。

会社は、①基本協約第250条を盾にして、団交開催を制限してきました。②欠勤の解釈では「年

休は欠勤の一部である」とねじ曲げた解釈を主張してきました。

今回の判決は、このような会社の主張を全面的に覆したもので、私たちの主張が認められました。今後も会社の労働組合を更に邁進していきま



裁判闘争でした。JR東海労の皆さんと共に闘い「無罪判決」を勝ち取ることができました。労働組合と民主団体の協力の大切さを学びました。

日本労働運動は、賃上げなど「政府の手ひら

る今、JS労を結成したJR東海労連を結成したことは大きな意義があると思います。

## 組織強化・拡大！ 組織展望の闘い

名古屋地本 丹羽 成生



を得ることができました。

そして、この新たに切り拓いた組織展望の礎を更に積み重ねると共に、第34回地本大会において擁立した松山新委員長を

先頭に、今年一年、組合員、OB、家族が一丸と

なっていると思います。JR東海労は少数派ではあるけれども、少数派ではありません。まだまだ限りなく多数派の可能性を秘めています。現実から逃げたり、立ち止まっていたりしては組織の展望は語れません。

更なる前進のために、名古屋地本も2025年

一丸となって闘っていきます。

## 津崎裁判で真実を明らかにする！

新幹線関西地本 渡邊 幹夫



仲間の皆さん、新年明けましておめでとうございます。

昨年は「津崎裁判」を共に闘っていた皆さん、ありがとうございます。

のか？嘘は絶対に許しません。津崎氏に嘘の報告文書を書かせた人物は、未だに法廷に現れていません。来れないんでしょうか？逃げは絶対に許しません。

私たちは、会社・権力の意志を代弁したJR総連指導部による組織破壊攻撃を跳ね返してきました。さあ、反転攻勢の闘

## 休憩裁判に勝利するぞ！

新幹線関西地本 浦谷 幸二



皆さま、新年明けましておめでとうございます。

昨年9月17日、大雪で大幅な列車遅延が発生した一昨年の1月25日、出勤してから12時間以上も食事と休憩も与えられな

かった問題について、大阪地裁へ提訴しました。

当日、管理者の指示に対して何度も抗議をしましたが、代替乗務員や休憩時間を与えることは一切

ありませんでした。労基法では、休憩時間は労働時間の途中に与えるよう

に決まっています。勤務終了後に与えるものではあり

ません。昨年、新幹線のダイヤ

いです。「抵抗とヒューマニズムを基底に」などと気安く言う連中に、「言っていることではなく、やっていることがその人の正体である」ことを証明してやりましょう。

仲間と体を大切にしてい、前へ未来へ団結して進みましょう。本年もよろしくお祈りします。

が乱れ、東京から帰れなくなった乗務員に対して、北陸新幹線経由で新大阪まで帰らせ、休憩時間が与えられませんでした。しかし、後日会社は、休憩時間分の賃金を支給しました。このような対応ができるのであれば、当然、私に対しても同じ対応を取るべきです。既に私の提訴後、会社は対応を変更しています。裁判の成果です。

脱落者たちセントラル労働組合がこのような職場の闘いをするにはありません。私は、おかしいこと、理不尽な扱いに泣き寝入りしたくなかったため、またこれ以上、会社の違法・不法な取り扱いを繰り返さないように、本人訴訟に決起しました。

勝利まで闘いますので、今後ともよろしくお祈りします。